

納税と選挙の大切さ
同時に学ぶ出前教室

山形電波工高

山形税務署と天童市選挙管理委員会は20日、同市の山形電波工業高（高橋健二校長）で、納税と選挙の大切さを同時に学ぶ出前教室を開いた。税務署と選挙によるコラボ教室は東北で初という。

3年生約160人が受講し「日本の税金は約50種」「明治時代にはうさぎ税があった」などのうんちくクイズを交え、税の仕組みや役割を学習した。その上で、税に的を絞った立候補者の主張を聞き、模擬選挙に入った。

片や広く、薄く課税する



自分の考えに近い税財源の候補者に票を投じた
市・山形電波工業高体育館

間接税の増税を主張する「毛家太郎（もうけたろう）」氏、片や累進課税で所得の再配分を訴える直接税増税派の「皿利満（さらりまん）」氏。画面に登場した架空の2候補の主張を聞き、自分の考えに近い方に1票を投じた。記載台、投票箱は実際と同じ物だ。

仁藤康裕さん(18)は「待機児童解消が今一番の課題」と捉え、増税分で保育施設を増やすという皿利氏に投票し「税制の面で投票先を考えたことはなかった」と感想を話した。ちなみに、投票の結果は直接税派の大勝だった。